

神戸市の学童疎開と教員

Group Evacuation of Schoolchildren in Kobe City and the Role of Teachers at the end of the Pacific War

洲 脇 一 郎

要 旨

神戸市の学童疎開については、これまで十分な調査がなされているとは言い難い。本稿では学童疎開に関する、一覧性のある基礎的なデータを収集するとともに、集団疎開の勧奨の過程、教員の集団疎開への動員、疎開受け入れ側の町村、学校の状況などを明らかにすることによって、学童集団疎開政策の実施過程を明らかにする。

キーワード：疎開 集団疎開 縁故疎開 残留児童 教員組織 付添教員
再疎開

はじめに

1944（昭和19）年に実施された学童集団疎開から2014（平成26）年で70年が経過した。国民学校3年生で疎開した児童は現在では80歳に近く、児童を引率した教員の中でもっとも若い教員は20歳位であったので、90歳位になっているだろう。教員の場合は聞き取り調査も困難な状態になっている。また資料の散逸も懸念される。筆者が行った神戸市の小学校等での資料調査でも、小学校の周年記念誌等の編集の際には存在したと思われる資料の所在が不明になっている。時間の経過とともに資料の散逸が一層進みかねない。

神戸市の学童疎開については、1964（昭和39）年に発行された『神戸市教育史 第二集』で疎開の準備、疎開先一覧、疎開宿舍、食糧事情、保健衛生などかなり詳細に叙述している。しかしその後は、本格的な調査や研究が行われなかった。わずかに岡尾重氏が『勝ち抜くための疎開です』を1984（昭和59）年に刊行し蓮池国民学校の疎開の状況を明らかにした。岡尾氏は蓮池国民学校の児童として集団疎開に参加した人であり、後に神戸市の教員として蓮池小学校に勤務した人である。また1991（平成3）年に青木公直氏が『学童集団疎開の記録』で西郷国民学校について当時の校長が残した記録など貴重な資料を紹介し、疎開への教員の動員、疎開

の勸奨などについて明らかにした。青木氏は当時西郷小学校の教諭であった。各学校の周年誌では、西須磨小学校が1992年に『西須磨の年輪』で引率教員の記録などを活字化しており、学校の周年誌ではもっとも詳しく疎開の様相に迫っている。

その一方、兵庫県や神戸市としての調査・研究は率直に言って立ち遅れているといってもよいであろう。学童疎開を記録することについて本格的な取り組みは行われてこなかったといってもよい。東京都、大阪市、横浜市などに比較してみると、そのことは歴然としている。学童疎開が兵庫県民、神戸市民として、あるいは教員として極めて大きな体験であったにかかわらず、公的な歴史の編集において十分な注意と関心が払われてこなかったのである。特に近年の編集である『新修神戸市史歴史編 近現代』はわずか4頁を学童疎開に割いているにすぎないし、残念ながら新たな調査を行った形跡は見られない。

しかし兵庫県・神戸市の学童疎開についても、最近になって注目すべき調査・研究が行われている。一つは石田敏起氏による、疎開を受け入れた側である鳥取県についての調査・研究である。石田氏は疎開をした側だけでなく、疎開を受け入れた側の取り組みを明らかにすることによって、「疎開側、受入側双方の認識のズレを解消」することが「集団疎開の体験を歴史として次世代に語り継ぐ」ために不可欠だとしている。2002（平成14）年に「鳥取県内への学童集団疎開」、2014年に『鳥取県への学童集団疎開』において、鳥取県へ集団疎開した神戸市内の学校15校について調査・研究を行った。鳥取県及び神戸市での調査を踏まえたもので、この研究によって受入側としての鳥取県の状況はほぼ明らかされている。

もう一つは、甲南大学人間科学研究所による『兵庫県学童疎開関係資料集成』の発行である。現在までに3巻が発行されているが、神戸新聞の記事、尼崎市浜国民学校の資料を翻刻して出版したもので、いずれも人見佐知子氏の編集である。特に兵庫県、神戸市の行政資料の所在が明らかでない中で、疎開関係の神戸新聞の記事の集成は極めて有益である。

学童集団疎開は政策決定から極めて短時日のうちに、戦時行政機構を最大限に活用して実施された。国の政策決定を受けて都府県・市町村・学校がどのように対応したのか、どのような課題があったのかが問題であるが、本稿ではまず神戸市の学校の集団疎開の概要を明らかにしたい。特に教員がどのように疎開に動員されたのかを考察したい。次に山手国民学校の集団疎開を考察する。山手国民学校の疎開を受け入れた岡山県久米郡稲岡南村の状況についても紹介したい。神戸市全体の状況を明らかにするとともに、個別の学校のケースを解明することが、学童集団疎開の全体像、その実態に迫るための不可欠な作業と考えるためである。¹⁾

1 神戸市の学童疎開の状況

(1) 疎開の勸奨と縁故疎開・集団疎開

1944（昭和19）年6月30日に閣議決定された「一般疎開ヲ図ルノ外特ニ国民学校初等科児童ノ疎開ヲ強度ニ促進スルコト」について、1954（昭和29年）に発行された文部省編『学制八十

年史』は「この決定は戦争の前途に対する国民の危惧の誘発と家族制度の調整についての思わくから、決定が延びていたものである。」としており、疎開政策の決定に時間を要したことを示唆している。1943年12月22日発行の『週報』375号は「都市疎開問答」という記事を掲載し「四囲の状況からいよいよ空襲は必至を覚悟」しなければならないとして、防空都市のために人員の疎開、施設の疎開、建築物の疎開の必要性を訴えているが、人員の疎開について都市内に居住する必要性の少ない人々に積極的に地方に転出することを求めているに過ぎない。戦局の悪化によってようやく学童の疎開を強度に促進することが決定されたが、戦争から逃げるのではなく学童が防火・防空の足手まといになること、子供を家族から切り離しても付添教員等によって教育上支障がないという論理によって学童疎開が促進されることになったのである。文部省通牒によって集団疎開の対象都市は7月には東京都区部だけでなく大阪市、神戸市、尼崎市など全国で13都市が指定された。いったん政策が決定されると、国、都府県、地方事務所、市町村、学校という行政機構を総動員して縁故疎開、集団疎開が推進された。²⁾

兵庫県、神戸市について見ると、7月8日には兵庫県内政部長から神戸市に対して調査の依頼があり、12日に神戸市学童集団疎開研究調査委員会が設置された。14日には兵庫県教学課長が国民学校長を集め兵庫県の学童疎開方針を説明した。ここで集団疎開の実施要領の基本的な考え方が示された。西郷国民学校の吉田茂校長が残したメモによると、教学課長は、「縁故疎開一年～六年 三年以上縁故先ニ疎開シ、出来ザルモノニ対シテ集団疎開ヲ行フ」、集団疎開の対象となる学童は「重工業ノ会社付近ノ者ハ優先的ニ行フ」、疎開先は「兵庫県内ニ受け入レラレナイ時ハ近府県へ頼ム」、百人に教師2人、25人に1人の寮母を配置する、「教師ハ児童ト共ニ生活」、集団疎開の費用は保護者が月10円負担しその他の経費は市、県、国が負担する、などを口頭で説明している。また兵庫県の疎開の見通しについて、縁故疎開は約3割(3万)、集団疎開は3年生から6年生の4割3分、残留学童は2、3割という見方を示している。付添教員については「田舎ノ教師並ニ児童ト協調ノコト、対立セザルコト」を求めた。また保護者を15、16日中に開催すること、疎開決定者報告を7月20日、25日、31日の3回行うよう指示した。一回目は「決定ノ準備トナルヨウ」、2回目は「ホトンド決定」、3回目は「全部決定」と吉田校長はメモしており、兵庫県はできるだけ早く集団疎開、縁故疎開のおよその数を把握しようとしたものであろう。教学課長は、「真ニ学校ヲヒッサゲテ行ナウ覚悟ヲ以テ行イ父兄ニ徹底的ニ了解セシムルコト」と述べており、学校長に対して疎開の促進を強く求めている。

吉田校長は、教学課長の話から集団疎開は4割3分という予算上の制約があり申請があっても全部を受け入れることができないので、縁故疎開を多くすること、集団疎開の場合は分教場の形式となることを重要なことと受け止めたようである。西郷国民学校では15日に父兄会が開催されたが、「職員会並ニ父兄会」というメモには学童疎開の概要が書かれている。父兄会の際に「学童集団疎開申込書」が配布されたが、おそらくは野田文一郎神戸市長名の文書「学童の縁故疎開促進について」も配布されたと思われる。この文書は、学童疎開の目的は「在神の要

なき者が市外に疎開して防空の備えを万全にすることが肝要であり殊に次代の国家を担う学童の生命を空襲の惨禍から救うこと」だとしている。³⁾

各学校で保護者会の開催、縁故疎開の勧奨、集団疎開の申し込み受付が行われる一方、兵庫県は内務省の調整の下に集団疎開の受け入れ先の確保を行った。集団疎開希望者の調査と同時並行で受け入れ先確保の事務が行われたのであり、いかに集団疎開が急速に実施されたかが分かる。

千歳国民学校の学校日誌によると、7月11日、13日、14日、15日の休憩時に父兄会の職員打ち合わせが行われ、15日午後1時から5年生以下の父兄会を開催し、「学校から右疎開に関し説明、後受持との懇談」が行われた。県指示の16日でなく17日に6年生の父兄会が開催されている。16日が日曜日だったためかもしれない。父兄会以降も疎開に関し頻繁に打ち合わせや職員会が開催されている。7月20日に「学童疎開に関し校長会指示事項伝達」ための職員会、7月22日には「縁故疎開者手続に関し添付書類の慎重を期すること」、7月28日には「疎開学童に対し給食会計精算の件」の打ち合わせ、7月31日に「縁故疎開児童壮行式」が挙行され約800名が参加した。8月に入っても疎開関係の事務が続いている。⁴⁾

『兵庫県教育史』は昭和19年9月末現在で神戸市と尼崎市だけでも約5万人が縁故疎開を行ったとするが、各学校の状況は明らかでない。⁵⁾

西郷国民学校の場合は、縁故疎開が約全児童の約38.7%、集団疎開は3-6年の対象児童の約22.8%であった。残留児童は605名で全児童の46.9%とかなり多く14学級編制とした(表1)。7月30日付の『神戸新聞』によれば、小野柄国民学校では、縁故疎開660名、集団疎開615名の申告があった。しかし実際の小野柄国民学校の集団疎開児童数は約350名であり、集団疎開申し込みの数は多すぎる。新聞記事に掲載されたことをそのまま鵜呑みにすることはできない。⁶⁾

兵庫県は、7月30日より前に神戸市の集団疎開を神戸市2万3千7百名、尼崎市6千3百名、合計3万名と概定して諸準備を進めた。この数字は兵庫県会の集団疎開の予算審議でも使用さ

表1 西郷国民学校の疎開児童数(昭和19年)

	縁故疎開	集団疎開	残留
6年	76	61	69
5年	80	47	70
4年	83	50	67
3年	103	28	83
2年	91	—	161
1年	67	—	155
合計	500	186	605
備考	—	付添教員5	残留学級14

(出典) 神戸市西郷国民学校「昭和九年度以降 学校沿革誌」

れており、予算の基礎的な数字となった。

(2) 付添教員の人選

1944年8月9日付『週報407号』の掲載記事「学童疎開問答（下）」は「大きな付添教職員の責務」として、「教職員はいはゞ二十四時間教育を受け持っていることになるのですから、よく寮母を指図して、真に親代わりとなつて潤いのある愛情のこもつた指導をしていたゞきたいと思つてゐます。」と述べ戦時教育に徹することを求めるとともに、教員は一家の戸主にあたるので、「地元との融和を図つたり、町村当局と緊密に連絡して万般の世話や斡旋に當つたりするほか、配給や経理等、いろいろ面倒を願はなければなりません」とし地元との調整等も教員の仕事だとしている。集団疎開の成否は付き添い教員如何によって左右されたといつてもよからう。⁷⁾

どのように付添教員を選んだのであろうか。雲中国民学校の中山延二校長（後に神戸市教育委員）や集団疎開当時の教員は次のように語っている。「疎開ということは日本歴史いや世界史始まって以来の出来ごとであり、親の手から子供を離すということは、実に重大問題であった。これを一步誤れば大変なことになるというので、付添の先生の人選には慎重な態度でのぞみ、又出発前十日ほどは連日疎開教育についての講習をした。・・・

何しろ親としては、最愛の子を遠く手離すのだから、心中は名状しがたい不安でおおわれている。子供は親恋しさと、団体生活の不馴れから来る不安感、そこにデマがとび疑惑が起る。・・・こうした点先生の腹がすわっていなければ、とんでもないことになる。」校長は全職員40数名を裁縫室に集め、疎開付添について希望を出すように言った。「第一志望 進んで参加したいもの。第二志望 行けという命令があれば行くもの。第三志望 行きたくないもの。第四志望 どうしても残りたいもの。そして第四志望だけ理由を附記する。」ある教員（男41歳）は「疎開は教員の出兵だ、教育報国の機会だ」という校長の話を聞いて行く決心をしたと述べている。別の教員（男32歳）は「係累も少かったので第二志望に○をつけました。」ということ で付添教員が選ばれた。ちなみに雲中国民学校は岡山県吉備郡高松町、足守町、真金町に疎開した。付添教員は、男41歳、男39歳、男38歳、男38歳、男35歳、男35歳、男35歳、男32歳、男34歳、男32歳、男38歳、女24歳、女23歳であった（昭和20年度）。雲中国民学校の場合、教員27人中8人（内1名は休職中）が女子でありもともと女子は少ない。⁸⁾

次に志里池国民学校のある教員の回想を紹介する。

「此の疎開について特に清滝村の疎開主任の人選について、A 首席訓導、次席 B 訓導、それに私と三人で相談して内一人が着任してほしいとの山崎校長の言葉に、先ず A 氏は首席訓導は学校と現地との連絡には、学校にあって疎開地を主とすることは出来ない。B 氏は家庭の事情で行けない。（B 氏は奥様と長男は東京方面の航空隊に入隊、次男は中等学校で学徒動員で工場に勤務中。）そこで私は B 氏に「奥様を寮母とし、次男は工場の寮に入舎させればそれぞれ疎

開の目的を達するのではないか、単に家庭の事情それのみでは納得し難い。僕は君以上に困難な状態にあると思う。(当時私の家庭は妻、母、十九歳を筆頭に五人の子供。)と極力B先生に疎開地行きを勧誘説得に努めたが、頑として応じてはもらえなかった。」と人選の内幕を赤裸々に語っている。当時この教員は45歳であった。志里池国民学校は兵庫县城崎郡清滝村、三方村、日高町に疎開した。昭和20年度の付添教員は、男48, 男46歳, 男41歳, 男34歳, 男30歳, 女36歳, 男28歳, 女24歳, 女21歳, 女22歳, 男23歳である。11名中4名が女子で雲中校よりも女子の割合が高い。⁹⁾

西郷国民学校の場合は、疎開付添教員の調査の書類が知られている。7月20日付の調査では、男子14名(校長1名を含む)、女子15名中、「集団疎開ノ付キ添イヲ希望スル者」男子3名、女子0名、「委嘱スレバ行キ得ルト思慮セラレル者」男子5名、女子5名、「本人ノ病気ヤ妊娠ニヨリ行キ得ザル者」男子2名、女子3名、「家庭ノ事情ニヨリ行キ得ザル者」男子3名、女子2名、「残留セシムルヲ適当ト認ムル者」男子0名、女子5名である。付添教員ができない場合は、理由書の提出を求めたようである。希望調査は雲中国民学校の希望調査ケースともかなり似通っており、おそらくは教員の希望について校長がとりまとめ市に提出したのであろう。西郷国民学校は、昭和19年は兵庫県津名郡佐野町、仮屋町に疎開し、男子4名、女子1名が付き添っているが、付添を希望した教員は3名全員が、委嘱すれば行くことができると思われる者から2名が付き添っている。¹⁰⁾

付添教員をどう選ぶかは校長にとっても難しい課題であったかもしれない。教師としての力量、人物・性格、年齢、男女、疎開地における役割分担、心身の状態、家庭の事情、残留児童の教育など様々な要素を勘案しながら決定したと思われる。人選に苦慮した場合もあったと思われる。当時の教員組織を見ると、校長(学校長)に次いで首席訓導、あるいは教務担当(首席訓導は全校に配置されているわけではない)がいる。首席訓導等の主たる任務は校長補佐であり、このクラスが疎開に付き添うことはあまりないようである。疎開に付き添う教員集団のまとめ役、また地元との調整、渉外などの事務も担任できる人物を付添教員に含めなければならなかったのである。したがって首席訓導に次ぐような席次の教員が派遣されている例が多い。志里池国民学校で人選が難航したのは、このクラスに適任者が乏しかったためであろう。女子教員は概して若い教員が付添になっている。『神戸市教育史 第二集』は、「集団疎開では特に教師の適否によってその成否に影響するところが大きいので、各校ではその人選に深く意を用いた。付添い教師に白羽の矢をたてられた者が、家庭の事情や健康の関係で辞退することがあり、人選が難航した学校もあった。付添い教師に決定した者は、『教師の出征である。教育報国の機会だ』と国難におもむく出征将兵と同じ決意をもって、出発を前にして家財を整理し、家族を故郷に帰す等の処置をした者も多かった。」と人選の様相を伝えている。¹¹⁾

(3) 神戸市の疎開の概況

神戸の集団疎開は1944年8月末から疎開地に出発した。残された学校日誌を見ると、集団疎開の準備に教員が忙殺されている様子がよく分かる。1944年11月1日現在の神戸市の疎开学童数は全体で17312名、兵庫県10858名、岡山県3984名、鳥取県2470名であった。45年8月の付添教員は783名、寮母945、作業員761名であった。¹²⁾

1945年になるといよいよ戦局が悪化し、疎開は新たな段階を迎える。45年1月政府は学童疎開期間を1年延長することを決定した。3月には「学童疎開強化要綱」が閣議決定された。学童疎開を実施する地域を甲地域と乙地域に分け、甲地域は徹底的な疎開を実施する。乙地域はおおむね、それまで実施されている程度の疎開を実施する。甲地域では、3～6年生はさらに縁故疎開・集団疎開を徹底し全員を疎開させる。1・2年生についても縁故疎開を勧奨し、縁故疎開ができない者に対して授業は行わないが訓育を主とする教育を行う。神戸市は甲地域であった。45年3月に6年生が卒業し新3年生を集団疎開させること、1・2年生の縁故疎開、集団疎開の勧奨などを行わなければならなかった。

現在の神戸市東灘区の地域（1950年に神戸市域に編入）は、神戸市に隣接し空襲の危険のある地域であった。そのため集団疎開が新たに実施されることになった。

さらに44年に疎開していた学校においても、防空上の観点や軍の施設の関係、疎开学童数の増加等のために再疎開を実施した学校もある。真野、遠矢、稗田、室内、池田、川池、千歳、小野柄、成徳、西郷、西須磨、六甲、多聞、荒田の各校である。¹³⁾

表2は神戸市の学童疎開を一覧的に示そうとしたものである。再疎開等もあって集団疎開の基礎的データを作成することは相当困難である。『神戸市教育史 第二集』編集の際に利用された資料も散逸しており、現時点で利用可能な資料を収集してみた。したがって表2はあくまで暫定的なものであって今後新たな資料が収集できれば訂正していきたい。

表2 神戸市の学童集団疎開一覧

番号	国民学校名	疎開先宿舎(20年)	疎開児童数		付添教員(20年)	兵役教員(20年)	その他(20年)	総教員数(20年)	備考
			上19年下20年	上17年下20年					
1	成徳	兵庫県長谷村(円徳寺, 常光寺), 徳久村(法覚寺), 石井村(相應寺, 大船村), 幕山村(正覚寺), 久崎町(清林寺), 三日月町(明光寺, 高蔵寺), 佐用町(慈山寺)	486 366	2462 579	18	2		32	『創立五十周年記念誌』
2	西郷	兵庫県室植村(慈眼寺), 資母村(工業組合, 蔵音寺), 高橋村(楽音寺, 光蓮寺, 専福寺)	186 240	1369 507	10	不明	不明	19年度29	『学童集団疎開の記録』
3	六甲	岡山県笠岡町(金光教会, 遍照寺, 神島寮, 小田寺, 神護寺, 黒住教会, 玄忠寺, 観照寺, 金浦青年学校)	276	2720 1475	15	3		41	
4	西灘	兵庫県福崎町(福崎高女), 川辺村(天理教会, 西公会堂, 東公会堂), 田原村(教願寺), 長谷村(祐泉寺, 清水寺), 中寺村(西念寺), 八千種村(嶺雲寺, 円照寺)	442	2747 464	19	3		40	『あゆみ 誕生80周年記念誌』

5	稗田	兵庫県豊富村(円通寺), 置塩村(塩田温泉), 谷内村(天理教会), 船津村(碧雲寺, 泰法寺, 常德寺, 西勝寺), 山田村(□光寺)	379	3305 992	18 事務所1	3	休職2	44	
6	摩耶	岡山県井原町(摩耶寮), 芳井町(山成寮, 千輪寺), 西江原町(法泉寺), 高屋町(宿舎, 木ノ子宿舎)	281	2042 980	16			34 (養訓1)	『摩耶70』
7	福住	岡山県高梁町, 成羽町	253 347	2543 327	16		臨教所2	26	薬師院寮, 宝妙寺寮, 祥雲寺寮, 定林寺寮, 桂蔵寺寮, 野山寮, 正玄寺寮, 真光寺寮, 松連寺寮, 道源寺寮 『高梁市史』
8	高羽	岡山県勝山町(観音寺寮, 月田植田寮, 月田中井寮, 月田南屋寮, 観音寺寮), 久世町(杉山寮, 吉祥寺寮), 落合町(仏士寺寮, 鍋屋寮), 川東村(善福寺寮, 光林寺寮), 美和村(社務所寮, 薬王寺寮, 光林寺寮)	284	1595 579	17			27	『高羽 創立二十周年記念誌』
9	雲中	岡山県高松町(大黒屋, 新木屋, 川口屋), 足守町(大光寺, 東漸寺), 真金町(普賢院)	300 334	1609 317	13	1	休職1	27	『創立百周年記念誌』
10	若菜	兵庫県小野町(小野中学校寮, 小野女学校寮), 市場村(米迎寺寮, 池尻公会堂)	212	1461 135	11	2		24 退職手続 中1	
11	筒井	兵庫県北条町(北条高女寮), 富田村(大日寺寮, 正□寺寮, 法覚寺寮)	193	1374 274	10	1		21 退職予定 1 他県へ1	
12	二宮	岡山県総社町(高塚屋, 宝福寺, 宝満寺), 新本町(円尾寺), 山田村(華光寺), 園村(宝生院)	240	1769 229	16 (養訓1)	1	臨教所2 休職2	31	『創立六十周年誌』
13	宮本	兵庫県米田村, 上東条村	179	1928 144	8 事務所1			18	総持院, 吉祥院, 大乘院, 久□□ 『創立50周年記念誌』
14	小野柄	兵庫県(広田村, 神代村, 賀集村, 福良町)	358 438	2264 126	11 事務所1			19	白水寺, 松雲寺, 浄願寺, 宝林寺, 浄光寺, 西蓮寺, 黙□寺
15	上筒井	岡山県矢掛町, 三谷村, 山田村	206	309	11	3	臨教所1 休職1	24	奨道塾, 多聞寺, 大通寺, 国勝寺, 洞松寺, 観蓮寺 『集団疎開の記録』
16	脇浜	兵庫県滝野町(平川寮), 社町(持宝院寮, 社高女寮, 善□寺, 大黒寮)	261	2299 84	12	4	臨教所1 休職1	26	
17	吾妻	兵庫県中東条村, 下東条村	234	2147 367	12	6	臨教所2 休職1	35	吉井公会堂, 厚利公会堂, 安国寺, 万勝旅館, 金蔵寺, 栄枝亭, 持明院, 松沢公会堂, 総寺院『吾妻 創立70周年記念誌』
18	神戸	兵庫県志方村(観音寺, 中町公会堂), 西志方村, 阿弥陀村(松月楼), 別所村	321	1712 230	16 (養訓1) 事務所1		派遣1	27	浄光寺, 西蓮寺, 黙□寺『わたしたちの学校の歴史』
19	諏訪山	兵庫県東神吉村(常楽寺, 真宗寺, 妙願寺), 平荘村(長楽寺, 報恩寺), 東志方村(安楽寺, 円福寺)	265	1497 468	15 事務所1		派遣2	24	
20	山手	岡山県稲岡南村(誕生寺), 神目村(神目中公会堂, 上神日公会堂), 弓削町(泰西寺, 神坂邸), 打穴村(普光寺, 定国公会堂)	250 349	1626 612	13	2	臨教所1	23	『楠の木陰に』

21	北野	岡山県福渡町, 金川町, 建部村	227	1309 168	14		病欠 1	25 (退職 1)	妙泉寺寮, 宗林寺寮, 龍淵寺寮, 妙覚寺寮, 妙福寺寮
22	下山手	兵庫県北条町(妙典寺, 西岸寺, 大信寺), 天満村(円光寺, 清久 寺), 上荘村(八王子修養道場, 常楽寺)	240	1259 414	12 事務所 1	1	臨教所 1	23 (養訓 1)	他に生活館寮 『創立70周年記念誌』 『学童疎開の思い出』
23	湊川	兵庫県安師村(円徳寺, 国民学 校), 城下村(国民学校), 神戸村 (天理教会), 下三方村(蚕飼育 所)	305	1675 228	11	3		23 (養訓 1)	
24	橋	兵庫県山崎町(青蓮寺, 妙勝寺, 大雲寺, 山崎高女寮)	176	908 108	5	1	休職 1	13	
25	多聞	岡山県芳野村(谷口寮, 浜屋寮, 後藤寮), 津山市(本源寺寮)	93	1026 67	6			16	
26	東川崎	兵庫県山崎町(随陽寺寮, 篠陽 女学校寮, 教秀寺学舎)	138	842 127	7			11	
27	荒田	岡山県津山市(浄勤寺, 妙法寺, キリスト教会, 地藏院, 泰安寺, 愛染寺)	419	1503 289	10	3	臨教所 1	23	
28	湊山	兵庫県押部谷村, 伊川谷村	225	1287 693	10			19	成就寮, 宝珠寮, 福 智寮, 安養寮, 龍象 寮, 龍華寮, 三身寮, 太山寮, 性海寮
29	平野	兵庫県三木町, 久留米村, 別所 村	453	1757 701	18 事務所 1	2	休職 2	37	三池寮, 是真寮, く るみ寮, さつき寮, 日月寮
30	菊水	岡山県勝間田町, 植月村	202	1010 651	10		長欠 1	17 (養訓 1)	観音寮, 真行寮, 真 福寮, 東光寮, 金光 寮, 慈円寮
31	鶴越	岡山県林野町(田湖屋, 至誠寮, 寿林寺, 法眼寺), 土居村(岡本 寮, 学校寮), 江見町(江見館, 作東寮)	218	2375 1137	14	3		29 (養訓 1)	
32	西兵庫	兵庫県養父町(養徳寺, 西念寺), 大蔵村(泉屋, 法泉寺, 公会堂), 広谷町(公会堂), 糸井村(説教 所, 光福寺, 随泉寺)	328	1952 130	12	2	臨教所 3	25	
33	大開	兵庫県八鹿町, 高柳村, 関宮村	503	2864 22	18 事務所 1	4	臨教所 4 休職 1 長欠 1	39	京口公会堂, 高柳公 会堂, 関宮飼育所, 柳法寺, 実行寺, 金 光教会堂, 永照寺, 紙屋旅館, 新町公会 堂, 天子公会堂, 多 聞寺, 旭町公会堂, 畑邸
34	川池	鳥取県矢送村(温清楼, 鶴飼旅 館, 小川賢蔵宅, 津島安秋宅), 倉吉町(出雲屋旅館, 大橋旅館, 牧田旅館, 石井旅館, 松原旅館, 林旅館, 仲井旅館, 豊島氏宅), 北谷村(北谷小学校)	308	1817 816	14	1		24	『創立四十周年 川 池のあゆみ』
35	中道	鳥取県八橋町(中井寮, 養気寮, 明徳寮), 由良町(楠寮, 中道 寮, 兵庫寮, 湊川寮, 菊水寮)	256	1401 276	9	1		17	『中道の60年』
36	水木	兵庫県西谷村(田中屋旅館, 大 塚屋旅館, 長谷寺), 口大屋村 (福王寺, 天理教会), 大屋村(安 楽寺, 山路寺)	255	1885 155	10	3	臨教所 2	25	
37	入江	兵庫県東河村, 築瀬町, 与布土 村	326	1961 508	14	1		21	楽音寺, 法宝寺, 慈 照寺, 玉林寺, 円明 寺, 大同寺,
38	道場	鳥取県赤碓町, 淀江町, 御来屋 町	356	2080 72	15 (養訓 1)			29	
39	川中	兵庫県山口村, 生野町	293	1853 106	9	1		22 (退手 1)	生野高女, 神照院, 西念寺, 青蓮寺

40	須佐	兵庫県和田山町, 竹田町, 中川村	435	2086 161	13 事務所 1	1		22	法樹寺寮, 恵林寺寮, 金剛院寮, 自性院寮, 観音寺寮, 日輪寺寮, 妙泉寺寮
41	浜山	兵庫県豊岡町 (豊岡中学寮, 豊岡女学寮)	201	2068 826	10	2		27 退職予定1 集疎付添予1	
42	遠矢	兵庫県口佐津村 (長谷寺, 光永寺), 奥佐津村 (下岡青年会館, 単人青年会館)	251	1947 204	7	3	臨教所 1 休職等 2	22	
43	室内	鳥取県三朝村 (西藤館, 赤碓館, 福屋, 岩崎屋, 御茶屋旅館, 岩湯旅館), 西郷村 (山根旅舎, 牧田, 山田, 増井氏の養蚕室), 旭村 (今泉, 牧)	166 600	2019 1030	10	7	臨教所 3	29 (養 1)	『鳥取県への学童集団疎開』『むろうち50年のあゆみ』
44	真陽	兵庫県浜坂町 (浜坂鯛屋寮, 船岡屋寮, 車屋寮), 温泉町 (井筒屋寮), 香住町 (願行寺寮, 帝釈寺寮, 西迎寺寮)	458	2272 907	10	2	病欠 2 休職 1 臨教所 1	33 入宮予定 1	『真陽百年』
45	長楽	兵庫県出石町	292	1982 544	13	5		25	女学校寮, 本高寺, 昌念寺, 経王寺, 願□寺, 福□寺, 勝林寺
46	真野	兵庫県城崎町	265	2074 659	9		講習 2	22	
47	御蔵	兵庫県豊岡町, 五荘村	155	1495 397	9	1		19 退職手続 中 2	新宮寺寮, 乗雲寺寮, 信楽寺寮, 帯雲寺寮。
48	長田	鳥取県浦富町, 岩井町	264	1616 549	13	2	産後休 1 休職 1	24 退職出願 中 1	岩井寮, 清風寮, 日の丸寮, 花屋寮, 備前寮, 岩井寮, 観湖寮, 岩美寮。
49	神楽	兵庫県竹野村, 港村	271	1796 490	10	2		26	照満寺, 青年会館, 金波楼, 小林旅館, 山竹別館, 照福寺, 興長寺, 金波楼別館
50	志里池	兵庫県清瀧村 (神風寮, 大和寮, 清明寮), 三方村 (鶴峯寮, 鴻志寮), 日高町 (苧田寮, 江原寮, 白菊寮)	290	1877 484	11		臨教所 1 休職 2	30	『創立二十周年記念』
51	蓮池	兵庫県上郡町 (専祥寺, 明福寺, 華蔵寺), 坂越村 (妙道寺, 公会堂, 奥藤邸), 高田村 (願栄寺, 西乗寺)	458	2508 1083	17	2	長欠 1	39 退職予定等2 出向予定 1	『勝ち抜くための疎開です』
52	二葉	鳥取県若桜町 (西方寺, 龍徳寺, 寿覚院), 船岡村 (前場旅館, 橋本屋, 東屋, 柳屋), 智頭町 (林新館, 井福屋)	324	2194 1092	15	3		33 退職出願 中 3	『戦時学童疎開五十年記念誌』
53	名倉	鳥取県青谷町 (明□邸, 立正寺, 興宗寺, 田中邸), 勝谷村 (譲伝寺), 正条村 (長泉村), 吉岡村 (宝泉寺, 中島屋, □□屋)	308	1635 875	17	2		30	『鳥取県への学童集団疎開』
54	池田	鳥取県三朝村 (大橋旅館, 三朝館, 桶屋, 煙草屋旅館), 小鴨村, 上小鴨村 (太田重正邸, 明現寺)	169 500	1090 485	10	1		18	『鳥取県への学童集団疎開』 『池田 創立50周年記念誌』
55	千歳	鳥取県松崎村, 浅津村	319	2513 868	18	3	産後休 1	33	養生寮, 藤田寮, 谷水寮, 長栄寮, 日の出寮, 龍徳寮, 忠成寮, 東郷寮, 望湖寮, 日進寮

56	西須磨	岡山県今城市(上山山五ヶ寺), 瀬戸町(風月旅館, 新町旅館), 高陽村(千光寺, 養心寮, 天理教会), 西山村(青年学校, 公会堂), 鳥取上村(石相校), 福田村(円福寺), 行幸村(妙興寺), 国府村(正通寺)	495 576	2868 1258	26	3	病欠・休職 2	50	『西須磨の年輪』
57	東須磨	兵庫県竜野町, 斑鳩町, 揖保村	482	2709 791	20 事務所1	2	病欠5 休職1	40	源徳寺, 円光寺, 宝林寺, 斑鳩寺, 光善寺, 法雲寺, 如来寺, 本行寺, 乘願寺, 龍宝寺, 円覚寺
58	板宿	岡山県石生村(元恩寺寮), 和気町(本成寺寮, 法泉寺寮), 本荘村(旧役場寮, 観音寺寮), 伊里村(正楽寺寮), 藤野村(安養寺寮, 実成寺寮)	240 344	2209 816	14	7	35 退職予定2 出向予定2 休職予定1		『創立式拾周年記念小史』
59	大黒	兵庫県佐用町(常德寺, 天常教会), 平福町(教岸寺, 正覚寺, 光勝寺), 林田村(新町公会堂)	321 305	1913 444	13 事務所1	1	県庁1	27 (養訓1)	『大黒 創立二十周年記念』
60	若宮	兵庫県龍野町(中学校寮, 仏教親友会寮), 揖西村(照円寺寮)	221	1882 305	14	2	臨教所1 休職2	31	
	合計		17312	111986 30134	774 事務所11	108		1625	
61	本庄	兵庫県寺前村(最明寺, 神市川教会, 林昌寺, 神平教会, 長楽寺), 栗賀村(学校講堂, 生蓮寺, 吉祥寺), 大山村(神埼大教会, 神大分教会)	310		13				『沿革史』 『本庄村史 歴史編』
62	魚崎	鳥取県江尾村(浜屋旅館, 米子屋旅館, 門屋旅館, 北島教会, 東祥寺), 神奈川村(源昌寺, 万福寺), 根雨町(金光教会, 本山旅館, 天野旅館), 日野村(本郷公会堂)	222		11				『魚崎町誌』
63	本山第一	鳥取県大村(小林由隆氏養蚕場), 用瀬町(田中屋旅館, 山一旅館, 余戸屋旅館), 散岐村(大義寺, 天理教会, 円浄寺)	195	1415	12			37	『本山 第一小学校九十年史』 『本山村誌』
64	本山第二	鳥取県西郷村, 佐治村(林泉村, 広徳寺)	76						『鳥取県への学童集団疎開』
65	住吉	鳥取県八東村(吉野屋旅館, 吉野屋別館), 丹比村(祥雲寺, 実相寺, 谷口旅館)	128		6				『続住吉村誌』
66	御影第一	鳥取県日野上村	72						『わたしたちの学校御影教育六十年』
67	御影第二	鳥取県石見村(石見東国民学校), 福栄村(自照寺, 玉泉寺)	82						『鳥取県への学童集団疎開』

- (注) 1 疎開先宿舎は「昭和20年度 職員録」及び各校の記念誌等により記載した。
2 疎開児童数は、上段に『神戸市教育史 第二集』により昭和19年11月1日の数字を記載した。下段には各校の記録等により判明した昭和20年の数字を記載した。
3 児童数は上段に昭和17年度の児童数を『神戸市学事提要』(昭和17年刊)を、下段には昭和20年11月10日現在の「国民学校児童収容替臨時措置案」の数字を記載した。
「国民学校児童収容替臨時措置案」については、洲脇一郎「神戸空襲と国民学校」を参照。
4 付添教員は、前掲「昭和20年度 職員録」から職員の住所によって記載し、他の利用可能な資料によって補正した。
5 兵役教員は、職員録に応召、出征等と記載がある者の合計を記載した。
6 その他には、休職、臨時教員養成所入所等を記載した。
7 総教員数には、校長、兵役、休職、臨時教員養成所入所等をすべて含めてある。養訓は養護訓導の略である。
8 備考欄には、疎開宿舎名は判明しているが、所在町村が不明のものを記載した。また学童疎開に関係する学校誌等がある場合、それを記載した。

学校番号は筆者が仮に付した番号である。空襲のおそれが少ないことから集団疎開を実施しなかった国民学校初等科の学校は、妙法寺, 多井畑, 白川, 垂水, 塩屋, 名谷, 舞子である(垂水は高等科併設)。神戸市内で集団疎開を実施したのは60校である。61~67は東灘区の学校であ

り、昭和20年に疎開が実施された。

疎開の「宿舎」は、「昭和20年度職員録」の教員の住所から推定したが、各校の記念誌等の記載がある場合はそれによって訂正等を行った。宿舎名は分かるが、それがどの町村にあるのかが判明しないケースがある。その場合は備考に宿舎名を記載した。再疎開実施校については、再疎開の宿舎が判明している場合はそれを記載した。宿舎は、寺院・教会などの宗教施設、旅館、国民学校・女学校などの学校、公会堂などが多く、個人の住宅、養蚕室なども疎開宿舎として活用された。

「疎開児童数」は、上段に前述の『神戸市教育史第二集』のデータを記載した。下段に45（昭和20）年のデータを示したが、45年の疎開児童数が判明している学校は極めて少ない。今後の作業として例えば、学校日誌等によって疎開引揚の人数の調査などの調査を行うことが必要であろう。児童数は45年度には、各校とも疎開児童数はおおむね増加しているが、年度当初に集団疎開してもその後縁故疎開に行くことになった児童も多いとみられる。45年には1年生、2年生も集団疎開の対象になったが、集団疎開に参加した児童は多くはなかったようである。山手は1年生4名、2年生26名、二葉は1・2年生は男子11名、女子9名、西須磨は2年生90名、1年生23名であった。西須磨は例外的に多いように思われる。¹⁴⁾

各校の児童数は、1942年に発行された『神戸市学事提要』の数字を上段にあげ、45年については、「国民学校児童収容替臨時措置案」から11月10日現在児童数を下段に示した。11月10日は疎開児童の疎開地からの引揚が終わり、住居の確保等が可能な一部の児童が帰神しつつあったであろう。したがって、ごく大雑把に言えば1942年の児童数から1945年11月10日の児童数を差し引いた数が縁故疎開の概数といえよう。そうすると8万1千名位が縁故疎開したと見られる。¹⁵⁾

「付添教員」は主として「昭和20年度職員録」に記載されている職員の住所からデータを拾ってみた。これについても学校誌等の記載があるものは補正したが、学校誌等がまったくない学校もあり、また職員の住所として疎開地でなく神戸市等にある本来の住所を書いている場合や記載が判然としない場合があって困難を極めた。また人事異動がかなり頻繁に実施されており職員録に反映されないケースもあったと考えられる。年度当初に作成され、その後に異動があっても職員録に記載されていないこともあっただろう。なお、疎開地の地方事務所で勤務していたと見られる教員は、疎開事務を円滑に実施するために派遣されたと考えられるため、付添教員の外数として示した。

「兵役教員」は応召、出征、入営現役などと記載され軍務に服していると考えられる教員数を示した。若い男子の教員の多くが軍務に服していた。45年度は108人が兵役に服していたと見られる。

「その他」には、休職中の教員、臨時教員養成所に入所中の教員を示した。休職等が36名、臨時教員養成所は29名、そのほか派遣等もある。

「教員数」には校長、助教、兵役教員、休職中の職員等を含めた。学校に在籍する教員数を把握するためである。兵役、休職等もかなり多い、戦争末期には、神戸市の教員組織はかなり弱体化が進行していたのでないかと考えられる。加えて縁故疎開等による児童数の減少は学校の教員数を減らすことになり、45年末には深刻な事態を迎えることになった。

(3) 再疎開

先に述べたように昭和19年に疎開した場所から、国防上の理由等から再開した学校は多い。『神戸市教育史 第二集』は14校を挙げているが、山手、西須磨も疎開児童が増加したなどの理由から近隣で宿舎を確保し児童を分散させている。再疎開については、分明的でないことが多い。ここでは、一つの例として西郷国民学校を取り上げる。西郷国民学校では、昭和19年9月3日に兵庫県津名郡佐野町及び同郡仮屋町に疎開した。佐野町に疎開したのが第1集団で集団長は林清幸訓導、児童75名が疎開した。仮屋町に疎開したのが第2集団で岸本彦一訓導を集団長とし、児童111名が疎開した。各宿舎の児童の学年・人数、付添教員、寮母、作業員は表3

表3 西郷国民学校の津名郡への疎開

昭和19年度	昭和20年度
兵庫県津名郡佐野町（第1集団）	兵庫県津名郡佐野町（第1集団）
集団長 小林清幸訓導 児童75名 第1宿舎 八浄寺 学年 5男27名 3女11名 計38名 教員 1名 寮母2名 作業員2名 第2宿舎 鍋嘉旅館 学年 5女20名 3男17名 計37名 教員 1名 寮母 1名 作業員1名 寮務嘱託 佐野町長 助役 国民学校長	児童93名 第1宿舎 八浄寺 学年 6男40名 女12名 計52名 教員 2名 第2宿舎 鍋嘉旅館 学年 6女24名 4男17名 計41名 教員 1名
兵庫県津名郡仮屋町（第2集団）	兵庫県津名郡仮屋町（第2集団）
集団長 岸本彦一訓導 児童111名 第1宿舎 雁谷旅館 学年 6男22名 4年男17名 4女11名 計50名 教員 1名 寮母2名 作業員1名 第2宿舎 勝福寺 学年 6男18名 4男14名 計32名 教員 1名 寮母1名 作業員1名 第3宿舎 潮音寺 学年 6女21名 4女8名 計29名 教員 1名 寮母 1名 作業員 1名 寮務嘱託 仮屋町長 駐在所巡查 国民学校長	児童110名 第1宿舎 雁谷旅館 学年 5男30名 5女20名 計50名 教員1名 第2宿舎 勝福寺 学年 5男14名 3男18名 計32名 教員1名 第3宿舎 潮音寺 学年 5女14名 3女14名 計28名 教員1名
昭和19年度当初学級編制・在籍児童 26学級 児童数 1296名 教員数 本科27名 専科2名 疎開後の残留児童数・学級編制 児童数606名（昭和20年2月末現在）14学級	疎開実施後の学級編制 8学級 児童数 385名 残留教員 10名

（出典）神戸市西郷国民学校「昭和九年度以降 学校沿革誌」

（注）昭和20年度は集団長、寮母及び作業員数、寮務嘱託の記載はない。

のとおりである。第1集団、第2集団の寮務嘱託には町村長、国民学校長、派出所巡査等が就任しているが、町村をあげての支援が行われたようで、「農業会、婦人会、漁業組合等受入態勢の整備、食糧、教育、衛生、慰問等あらゆる面に協力を受」けた。

昭和20年3月3日、6年生は卒業のため疎開地から引き揚げた。新3年生等を勧誘し新たに疎開集団を編成した。佐野町の八浄寺は児童52名（6年男子40名、4年女子12名）、付添教員2名、鍋嘉旅館は41名（6年女子24名、4年女子17名）、仮屋町の雁谷旅館は50名（5年男子30名、5年女子20名）で教員1名、勝福寺は32名（5年男子14名、3年男子18名）で付添教員1名、潮音寺は児童28名（5年女子14名、3年女子14名）だった。新たに疎開する児童は4月13日、25日、26日に神戸を出発した。¹⁶⁾

ところが「空襲頻繁戦局の転移により集疎移駐の必要にせまられ・・・再疎開を決行」した。5月11日吉田校長は新集団疎開候補地調査のため谷口視学とともに出石に出張した。5月中旬には学校長のほか林、岸本両訓導が調査に出張し宿舎が決定した。このため津名郡の疎開地から第一集団は5月26日、第二集団は5月27日に神戸へ引き揚げた。5月26日の学校日誌は「集団疎開児童佐野集団午後七時四十分帰神 一同元気旺盛」と記している。同じ日の学校日誌は「校長 再疎開交渉ノ為奔走ス」と書いている。新たに集団疎開の参加者を募集し、三集団を編成した。第一・第二集団は6月3日、第三集団は6月4日に再疎開地である出石郡に出発した。6月5日の神戸大空襲では「大石北、中町の大半、東町阪神以北」が罹災し、校舎も罹災、本館3か所に焼夷弾が落下した。空襲後1週間は「罹災者の収容所」となった。大半の児童はかろうじて空襲に遭わなかったが、6月27日に残りの児童20名が疎開地に向けて出発した。昭和20年の津名郡への疎開と比べると、児童数は203名から240名（1・2年を含む）、教員は6名から10名になった。西郷国民学校の疎開からの引揚は10月28日であった。¹⁷⁾

表4 西郷国民学校の再疎開の体制（昭和20年）

第一集団	第二集団	第三集団
出石郡室埴村	出石郡資母村	出石郡高橋村
慈眼寺 6男33名 4年女24名 計57名 付添教員 林訓導他2名 寮母2名 作業員2名	工業組合 6女35名 3女20名 計55名 付添教員 小林訓導他1名 寮母2名 作業員2名	楽音寺 5男35名 3女14名 計49名 付添教員 岸本訓導他1名 寮母2名 作業員1名
	蔵音寺 1年10名 2年15名 計25名 付添教員 本田訓導 寮母2名 作業員1名	光蓮寺 4男20名 付添教員 下田訓導 寮母1名
		専福寺 5女34名 付添教員 岩橋訓導 寮母1名 作業員1名

（出典）神戸市西郷国民学校「昭和九年度以降 学校沿革誌」

(4) 現神戸市域の武庫郡の学校の集団疎開

現在神戸市域になっている武庫郡の国民学校の集団疎開について『神戸市教育史 第二集』はまったくふれていない。本庄、住吉、魚崎、本山第一、本山第二、御影第一（現御影小学校）、御影第二（現御影北小学校）の7校が集団疎開を実施した（表2参照）。本庄国民学校は近くに軍需工場である川西航空機甲南工場があったため4月23日に疎開を実施している。残りの各校は6月20日～24日に疎開地に向けて出発した。本庄は兵庫県神崎郡に疎開したが、その他の学校は鳥取県に疎開した。鳥取県への疎開の基本的データは石田敏紀氏が『鳥取県への学童集団疎開』にまとめている。本稿では222名が鳥取県に疎開した魚崎国民学校の例を見ておこう。

1945年の学校日誌はどの学校でもそうであるが、疎開と防空に終始している。3月17日の神戸大空襲では魚崎校は炊事室の一部を神戸市救援のための魚崎町の炊出に使用した。23日に「疎開ニ関スル基礎調査」が行われ、29日には全職員を集合させ「疎開ニ関スル回覧」を配布した。31日に集団疎開希望児童の保護者会を開催した。学校では疎開事務に対応するため疎開委員会を組織し再三にわたって委員会を開いている。5月11日の空襲では1階教室に被災者を収容し、10名が学校で宿泊した。5月15日には、疎開教育視察のため訓導を兵庫県多紀郡に派遣した。19日に「集団疎開希望者へ配布書類」「準備品ノ通知書類」を作成した。21日に「集団疎開申込書類並誓約書」を提出させた。29日には兵庫県教学課で「集団疎開打合会」が開催された。同日「集団疎開保護者世話人会」が開かれた。31日に集団疎開児童の身体検査が行われた。6月3日、集団疎開に関する伝達事項受領のため地方事務所訓導を派遣した。6月5日の空襲では「出勤職員救護、罹災者収容其ノ他ノ業務ニ従事」し、「罹災者ノタメハ教室開放」され「罹災者多数 炊出手伝」を行った（罹災者は6月10日には全員退去した）。この前後、教員は集団疎開の荷物の準備に追われている。6月11日「集団疎開後援寄附金募集」、17日には集団疎開保護者会を開催し、食費、会費を徴収した。20日、21日に疎開地に出発した（校庭に集合した後住吉駅から乗車）。26日疎開引率に同道していた校長他3名の訓導が帰校。27日には残留児童の在籍調査を行った。この日武川地方事務所（武庫郡及び川辺郡を管轄する兵庫県の出先機関）に教員を派遣し集団疎開事務完了を報告した。児童が帰校したのは10月28日であった。全員無事に帰校し、28日当日解散式が行われた。『魚崎町誌』は疎開に要した経費を記載しており、疎開費用は75228円、保護者負担は10760円、残額は魚崎町負担としている。（町負担分は国庫補助等を算入していないのであろう。）

6月5日の空襲後に集団疎開することになったが、当時としてはなお空襲が予測されたので多数の児童を疎開させることになったのだらう。¹⁸⁾

2 山手国民学校の学童集団疎開

(1) 「疎開記録」に見る山手国民学校の疎開～昭和19年度

神戸市山手国民学校（現神戸市立山の手小学校）の疎開の記録は、「疎開記録」としてまとめ

られている。引率した訓導が疎開の引揚からそう遅くない時期に作成したものであろう。この資料を中心として山手校の疎開の様相を考えてみる。

山手校では昭和19年8月1日に疎开学童の壮行式・祈願参拝を行った。8月3, 4, 9, 10日に疎開児童の宿泊訓練が行われた。教員に対しても17日に「疎開付添教師講習会」が神戸国民学校で開催された。27日に疎開先が決定された。この時点では岡山県久米郡稲岡南村、福渡方面であった。翌28日学校長が現地に出張した。さらに9月4日にも学校長、疎開付添訓導で再度現地視察を行った。現地での調査の結果、山手校は久米南村での疎開に決まったようである。9日午前9時に神戸市の連合疎開壮行会が開かれ、午後には校内疎開壮行会、父兄会が開かれた。こうして11日に5年、6年160名が疎開地に向けて出発した。15日には神戸市の第2次壮行会が開かれた。山手校の第2陣、3, 4年生90名は18日に出発した。

疎開先は岡山県久米郡稲岡南村北庄里方（現久米郡久米南町）の誕生寺（たんじょうじ、住職漆間正徳氏）である。誕生寺は浄土宗の名刹であり、浄土宗の開祖法然上人の生誕の地といわれる。「誕生寺が広い境内と大伽藍を擁し好適地」と判断されたためである。誕生寺から322畳を借り受け、「神戸市唯一の各校一ヶ所、総勢三百人の大集団地は決定した」。山手校は当初、疎開児童300人を見込んでいたのであろう。全部の学童を1か所で収容しようとしたのである。なお学校は疎開児童の父兄で組織する後援会を組織した。「学童の給食補助費、オヤツ費、附添手当、諸費等物の面の後援と精神的後援」とを目的としていた。後援会には役員が選出され、「本校と出先疎開地と家庭との連絡交渉」に当たった。¹⁹⁾

大集団を収容するには誕生寺の設備は十分でなかった。炊事場の増設、風呂場の修理、洗面所の改修、下駄箱の設備、便所3か所の新設等が必要であったが、それらの新設・改修工事の完成を待つことなく疎開児童が到着した。

疎開児童は250名、付添訓導は6名、寮母10名、作業員7名の体制であった。寮母のうち2名、作業員のうち4名は地元の住民から採用した（稲岡南村の文書は付添訓導を7名としている）。なお寮務嘱託には、村長、助役、寺惣代、農業会副会長、地方事務所視学委員、青年学校教頭が神戸市から委嘱された。

児童の学年・男女の内訳はこれまで判明していなかったが、稲岡南村文書で明らかになった。6男47名、6女37名、5男46名、5女32名、4男25名、4女23名、3年男22名、3女18名、合計250名（男140名、女110名）であった。²⁰⁾

児童は誕生寺を宿舎とし、誕生寺国民学校でも学習することになった。学校長原田仁義は「疎開児童に対して親切と周到な注意を払はれ地元と疎開児童に隔りのあってはならぬと万般に気を配はられ」た。学級の呼称も地元は○年ア組、疎開側はイ組とするなど、率先陣頭に立ち、全職員を指揮した。「原田学校長が『犬に出会っても、電信棒にも挨拶をせよ』と注意してくれたことは蓋し疎開した者への頂門の一針である。」と「疎開記録」が述べているように、原田学校長は疎開が円滑に進むために付添教員、児童が地元にとけこむことが肝要だと考えていたの

である。誕生寺国民学校は当時初等科約300名、高等科70名の規模の学校だったが、疎開児童のために2教室を提供した。5年生、6年生は9月13日に初めて登校し、14日から誕生寺校で授業が始まっている。3、4年生が到着した後に、22日に疎開児童歓迎式が行われた。²¹⁾

疎開地での教育方針として、大規模な集団であり家族的な雰囲気を楽しむことは出来ないが、その代わり「団体訓練により規律的な協同生活、軍隊式の長所を採り入れた国家人としての教養をなし得る美点をよく活かすこと」、「教職員・寮母・作業員が献身的、犠牲的精神により没我の教育愛をもって努力すること」、「村民と一和を計り仮初にも疎開と村との間に溝を生じるやうな事なきよう村民に対しても心して感謝報恩の気を失はないこと」「原田校長の教育方針とその指導下に入り、教育に、訓練に、行事に一致の態度をとること。地元教職員と附添訓導とは互いに敬愛の情を保ち、同じ校の職員となり合ってしまうはなればならぬ。」などが掲げられている。教職員はこのような方針で疎開に臨もうとしたのである。特に地元との融和に配慮していることがうかがわれる。児童の疎開信条は、「至誠に悖るなかりしか」「言行に恥るなかりしか」「気力に欠くるなかりしか」「努力にうらみなかりしか」「不精にわたるなかりしか」であり、これを「朝夕の点呼に合唱し同時に日々の行の反省に努め生活向上、団体訓練の基礎にした。」²²⁾

「学行一体」が疎開教育の一つの目的であったが、山手校も蔬菜を確保するため、作業教育に重点を置く、農業の活きた実習をする等の見地から、出発前から農耕道具の購入準備等を進めていた。地元の幹旋で1町7畝の田を借り受け、蔬菜の栽培のために児童を作業に従事させた。20年春からは蔬菜はほとんど自給できるまでになった。なお「蔬菜自給農園」の借り上げは村長と神戸市長との間で賃貸借契約を締結し、村長が土地所有者に賃料を支払うものとされた。

炊事用、浴用の燃料、耐寒用の木炭の確保は困難であった。6年生を中心として、山からの木材の切り出し、搬出、割木、炭焼きなどの重労働に従事させた。

誕生寺は「大きな寺、広い部屋、高い天井」で「神戸より寒気の激しい地」であるため耐寒設備、耐寒対策が急務であった。神戸市から費用を得て、部屋の間仕切り、大火鉢の購入、木製角火鉢の調達を行うとともに、木炭200俵余を製造した。厳寒期には、隔日入浴、就寝時に炬燵、湯たんぽを検討したが、火事、火傷等の課題があり、結局二重靴下を履かせることにした。

児童の健康状態は比較的良好であったが、動物性蛋白や脂肪を摂取させるため、魚肉、兎肉、鶏肉、牛肉等に費用を惜しまず調達に努めた。寒さの厳しい土地であるため、冬季には「凍傷」(あかぎれか)を起こす者が多く、毎日十数名の児童が津山市、弓削町等の医院に通院した。

教員が対応に困ったことの一つは保護者の面会であった。「父母の気持は察するに余りあるが、然し面会の事たる弊害の多く伴い易いものである。」神戸市が面会を許可すると、「最初のうちは規律厳正、模範的なものであったが、追々規約は破られ、旅館で愛児に食事させたり、如何に云い聞かせても闇の買出しをしたり」することがあって、教員の「心遣ひ」は格別であった。あまり多くを述べていないが、対応に苦慮しているのが分かる。²³⁾

(2) 昭和20年～宿舍の分散

6年生は昭和20年3月6日に帰還した。昭和20年度には、3年生以上の新たな集団疎開の希望者の受け入れ、1・2年生の受け入れのため、疎開児童が急増することになった。山手国民学校から稲岡南村の疎開事務担当者に宛てられた私信には、「尚、此度の空襲により当市に於ては授業致さざることに相成り、三年以上全部縁故疎開か集団疎開かに収容、授業することに相成り、多数御地に御世話に相成ることと存じ候。しかし実際数は未定につき設備の着手は後回しとしても経費と領収の手配等なし置き下されたく候。過般六年生帰神の際は一方ならぬ御高配を賜はり御多用中御見送りまでいただき誠に難有御厚礼申上候。無事帰神致し候節、父兄のよろこび、この様に皆よく肥えて立派になれること見違へるばかりなるに且つ驚き、且つよろこび只々地元各位の御厚情に対し感謝の念に満ち満ち居り候。・・・十三日修了式、十五日より入学試験、十七日の午前二時よりあの災害に候。当校児童は幸ひ一名の死者ありたる外全員無事に候。一方ならぬ御心痛下され御親切に御尋ね下され候御親切、只々感謝の外無之候。皆々一斉に何のこれしき必ずかたきを討たてやむべきかと復□にこと上り居候。役場各位によろしく御伝へ下されたく候。」と昭和20年度は疎開児童数の増加が見込まれるので協力を依頼するとともに、3月17日の神戸大空襲にも触れている。学校と村役場が信頼関係を形成しつつあることがうかがわれる。²⁴⁾

さて誕生寺の宿舍は大集団に過ぎたため、宿舍の分散を図ることになった。誕生寺を150名程度とし、残り200名を収容する新宿舍をさがすことになった。地方事務所の視学に候補地選定の依頼をし、卯野視学、神戸校長（山手校）、西村主任が実地検討したうえで、弓削（ゆげ）に3か所、神目（こうめ）に2か所、打穴（うたの）に2か所の宿舍を確保した。いずれも稲岡南

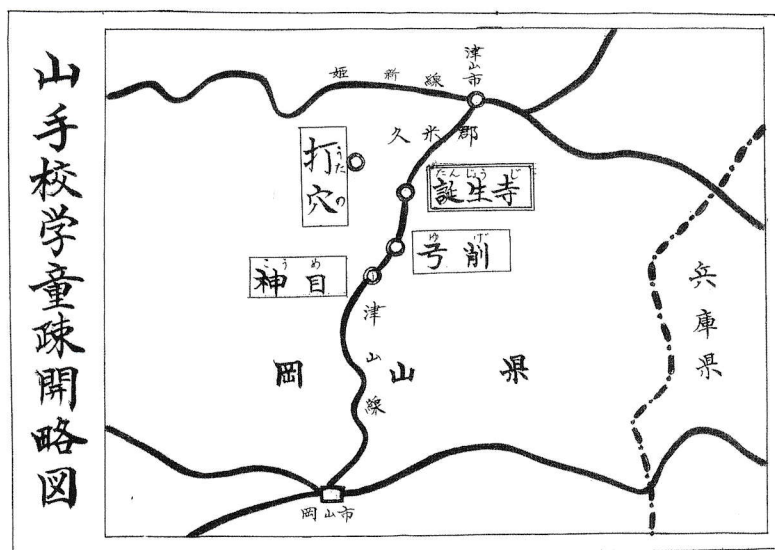


図1 「山手校学童疎開略図」

村の近傍の町村である（図1「山手校学童疎開略図」参照。弓削、神目は現在久米南町，打穴は現在美咲町）。しかし引き受け町村側と岡山県，地方事務所，神戸市との間に齟齬があり受入交渉は容易に進まず，神戸校長，西村主任は引き受けの承諾，諸設備の交渉に連日奔走した。神戸の空襲の激化や鉄道輸送関係から，新宿舎の受け入れ準備が整わないまま，児童を疎開させることになり，いったん全員を誕生寺に受け入れ，新宿舎の受け入れ体制が整った段階で児童を移動させることとなった。²⁵⁾

表5は昭和20年度の山手国民学校の職員一覧であり，表6は昭和20年の新たな疎開体制である。職員体制がどのようなものであったかを知るとともに，どのような教員が付添教員になったが分かる。疎開児童数は250人から349人に増加し，その中には1，2年生も含んでいる。付添教員，寮母，作業員も児童数の増加，宿舎の増加のために大幅な増員となった。各町村に主任を置き，全体を総主任として西村訓導が統括した。西村総主任は児童の担任を受け持たず，問題の解決や各宿舎の連絡調整にあっていた。なお，打穴村は無医村のため，看護婦を寮母兼務として定国寮に配置した。²⁶⁾

表5 山手国民学校の教員一覧（昭和20年度）

番号	性・年齢	受持・学年	備 考
1	男・53	学校長	
2	男・47		事務補助
3	男・45	6・男	誕生寺
4	男・45	3・男	誕生寺
5	女・50	4・女	打穴村普光寺
6	男・40	6・女	誕生寺
7	男・41	男・41	弓削町上弓削
8	女・51	1・男女	武徳殿学舎
9	男・38		指導主任
10	男・34	6・男	神目村神目中公会堂
11	男・34	4・男女	誕生寺
12	男・40	3・男女	熊野神社学舎
13	男・30	6・男	誕生寺
14	女・34	5・男女	誕生寺
15	男・44	4・男	打穴村定国公会堂
16	女・35	2・男女	弓削町泰西寺
17	女・39	2・男女	四宮神社学舎
18	男・25		出征中
19	男・21		出征中
20	女・20	3・女	弓削町神坂邸
21	女・28	1・男女	武徳殿学舎
22	女・20	6・女	神目村上神目公会堂
23	女・19		臨教所入所中

（出典）「昭和20年度職員録」

表6 山手国民学校の集団疎開体制（昭和20年度）

地域	宿舎	学年・人数	教員	寮母	作業員
誕生寺	客殿西	6・男 42名	1	2	1
	阿弥陀堂	6・女 22名	1	1	1
	客殿東	5・男 18名	1	2	2
		5・女 16名			
	浄土院	4・男 16名	1	1	1
		4・女 15名			
	食堂2階	3・男 30名	1	2	1
小計	159名	5	8	6	
弓削	下弓削寮	5・男 18名	2	2	1
		5・女 17名			
	神坂寮	3・女 30名	1	1	1
	泰西寺寮	2年 27名	1	2	1
		1年 6名			
小計	98名	4	5	3	
打穴	定国寮	4男 31名	1	2	1
	普光寺	4女 18名	1	1	1
	小計	49名	2	3	2
神目	神目寮	6・男 27名	1	1	1
	神目中寮	6・女 16名	1	1	1
	小計	43名	2	2	2
計		349名	13	18	13

（出典）神戸市山手国民学校「疎開記録」

（注）弓削の下弓削寮の教員の人数には総主任西村訓導を含む。

(3) 岡山県、稲岡南村の疎開受け入れ

ここで岡山県や稲岡南村の集団学童疎開の受け入れを見ておこう。昭和19年2月17日付で稲岡南村長から各部落会長宛に「都市疎開ニ伴フ地方転出者ニ対シ住宅供給要領ニ関スル件」が出され「住宅調査表」によって調査するよう指示された。19年末の警察調べでは京阪神などから作州5郡で1万737人の疎開者があった。²⁷⁾

学童集団疎開については、19年8月8日付で岡山県内政部長から稲岡村長宛に「学童集団疎開ニ関スル件」が通知された。少し長いが基本的な文書なので全文を紹介しよう。

岡山県内政部長

久米郡稲岡南村長殿

学童集団疎開ニ関スル件

戦局ハ正ニ重大以上ノ段階ニ至リ敵ノ反撃急ニシテ我が本土空襲ハ必死ノ情勢ニアルニ鑑ミ、政府ニ於テハ大都市学童ノ集団疎開ヲ断行シ国土防衛ノ強化ヲ図ラントス。而シテ本県ニ於テハ神戸、尼崎両市ノ学童約六千人ヲ受入ル、コトト相成タルニ付テハ貴管内ニ於テ約二〇〇名程度ノ受入方相煩度候条、共同防衛ノ趣旨篤ト御諒察ノ上、右受入方予メ御配意相煩度、

尚詳細ニ付テハ更ニ連絡可致モ大略左記要領ニ依リ実施相成ニ付御了知相成度。

追テ右人員割当ハ当方ニ於ケル寺院，教会台帳ヲ材料トシ併セテ地方事務所ニ於ケル各種建物調査ヲ加味シ別紙建物ニ付算定セルモノニシテ，實際ノ収容ニ付テハ多少ノ異動アルヤモ知レザルニ付，右数ヲ下ラザル如ク御考慮相成度特ニ申添。

尚為念右建物ニ付別紙様式ニ依リ至急御調査ノ上，八月十三日限り地方事務所長宛御報告相成度，尚本調査ニ付テハ国民学校長ヲシテ協力セシムル様通知シアルニ付，御了知ノ上可然御取計相成度。

記

- 一 疎開実施ノ時期 八月下旬ヨリ開始ノ見込
- 二 宿舍ハ余裕アル旅館，寺院，教会所，集会所，錬成所，別荘等ヲ借上ゲ之ニ充テ集团的ニ収容スルモノトスル。概ネ百名ヲ一団トシ二十五名以上ノ分園トシ分宿スルモ可
- 三 必要ナル寝具，炊事用具，机等地元ニ於ケル可能ノ範囲ニテ借入レルコト
- 四 寮母，作業員ハ地元ニ於テ採用スルコト
- 五 医師，看護婦等ニ付テモ地元ニ於テ採用スルコト
- 六 児童衣類等ノ洗濯，修理等ニ付テハ能フ限り地元婦人団体等協力奉仕ヲ仰グコト
- 七 主要食糧，調味食品及燃料其他統制物資ノ割当ニ付テハ，県ニ於テ考慮スル予定ニシテ蔬菜，生鮮魚介類等ノ副食物ニ付テハ極力地元ニ於テ斡旋スルコト
- 八 受入市町村ノ費用ニ対シ国庫ヨリ若干（受入児童一人当二元）ノ補助ヲナスモノトス
- 九 宿舍建物ノ改造及臨時施設並ニ第四，第五項ノ人件費等ニ要スル経費ハ全テ兵庫県又ハ神戸，尼崎市ノ負担トス
- 十 本件実施ノ期間ハ差当り一年トス
- 十一 本県実施ニ当リテハ地元当局ノ外，警防団，婦人会，青少年団，在郷軍人会，翼賛壮年団其ノ他諸団体，篤志家等ノ協力ヲ仰グコト

8月8日，岡山県は町村ごとの疎開人数の割付を終わって，町村長宛に当該町村が引き受ける学童疎開の人数を指定した。稲岡南村は200名の割当であった。県は寺院台帳，教会台帳を材料とし，さらに地方事務所の各種建物調査から割当人数を決めたが，実際の収容では多少の異動があるかもしれない。しかし指定した数を下回らないようにというのが趣旨である。1～11は集団疎開の費用負担，統制物資の割当，建物や設備の改良に要する経費負担など疎開に関する基本的な事項を記載している。

集団を収容するためには，施設・設備の改良を要する場合も多かったと思われる。「学童集団疎開宿舍応急附属建物工事仕様概要」という文書では，工事は宿舍管理者，地元町村長，疎開学校長と協議し万遺漏なきを期すよう工事施工業者に指示している。

「学童集団疎開宿舍借入契約並ニ造修ニ関スル条件」という文書は，宿舍の借入条件を示す

とともに、宿舎の炊事場、便所等の造修工事については、所在地の町村長に委託するものとしている。誕生寺の場合、昭和19年9月1日付で神戸市長野田文一郎と稲岡南村長志茂美木男との間に「工事委託契約書」が締結されている。便所設備、炊事場設備その他の工事で請負金額2683円35銭、竣工期限は9月10日であった。児童を収容するための応急工事であったのだろう。誕生寺の工事は昭和20年3月31日を竣工期限とする「柵、台、箱設備」の委託工事の精算書も残されている。また泰養寺についても造修工事が行われたようである。

岡山県知事宛の誕生寺の家賃届を見ると、誕生寺の宿舎の借主は神戸市長野田文一郎で、契約年月日は9月1日、家賃は畳1枚二付き1か月2円で322畳を借り受ける、家賃の支払いは毎月末現金払い、権利金はない、などの内容になっている。

岡山県内政部長は、昭和19年10月5日「疎開学童対策協議会決定事項ニ関スル件」、11月27日に「集団疎開学童寮舎ノ火災予防ニ関スル件」、11月22日に「集団疎開学童ノ食費増額ニ関スル件」、12月5日に「学童集団疎開追加受入ニ関スル件」、12月18日には「集団疎開児童ニ於ケル学校医嘱託ノ件」などの文書を発出している。「疎開学童対策協議会決定事項ニ関スル件」は「中央ニ於ケル疎開学童対策協議会」において、「採暖防寒設備ノ増設」「食糧及燃料ニ関スル事項」「衣料ニ関スル事項」「積雪地方ニ於ケル特殊用品ニ関スル事項」「保健衛生ニ関スル事項」について決定があった。集団学童疎開の生活や保健の状況の改善の方策をまとめたものである。岡山県が関係市町村長、国民学校長等に通知し、10月中旬、下旬に係官を派遣して調査するので、市町村及び国民学校においては予め調査しとりまとめておくよう指示した。

学童疎開追加受入は神戸市が岡山県に申し入れたものであるが、追加の内容は分からない。昭和20年1月18日には受入市町村に対する国庫補助が1人2円から4円に増額になったことが通知されている。

昭和20年5月8日に「集団慰問映画巡回ニ関スル件」が岡山県内政部長、岡山県受入集団疎開学童援護会長より、関係町村長、国民学校長宛に通知されている。巡回日程では県下59か所で映画会が実施されることになっている。巡回地はおそらく集団疎開の疎開地に一致すると思われる。神目、弓削、誕生寺、打穴でも巡回が予定されている。

稲岡南村に次第に一般疎開者が増加してくる。昭和20年3月31日現在で東京から10世帯37人、愛知から1世帯4人、大阪から14世帯56人、兵庫県から13世帯48人の転入があった。誕生寺国民学校初等科の在籍児童数も19年4月は約300人であったが、昭和20年4月には333人、8月15日には388人に増加している。増加した人数は縁故疎開者と見られるが、誕生寺国民学校はその対応もしなければならなかったのである。²⁸⁾

地方の主要都市も空襲の対象となった。昭和20年6月29日未明、岡山市が空襲された。同日の誕生寺小学校の学校日誌には「岡山市空襲罹災者受入体制整備ノタメ出勤命令電送（午前八時）」、翌30日は「岡山市空襲罹災者受入態制（ママ）整備ノタメ出勤」と記載されており緊迫した雰囲気が伝わってくる。岡山県内への空襲などによって誕生寺国民学校の児童数は増加し

たものと見られる。²⁹⁾

昭和20年7月25日現在の「疎開者戦災者転入調」によると、稲岡南村には「岡山市ヨリ戦災者」は34世帯、115人、「県外ヨリノ疎開並戦災者」は250世帯、531人であった。転入者のうち国民学校在学の児童数は118名、中等学校以上に在学の生徒数は31名であった。府県別の転入者では、兵庫県74世帯146名、大阪府73世帯175名、東京都26世帯59名、岡山市は56世帯144名（先の数字とは異なる）などで、合計284世帯、646名（男247名、女399名）であった。³⁰⁾

昭和20年になると、山手校の集団疎開の児童が縁故疎開することになって、誕生寺国民学校に挨拶に訪れる場合が見られる。例えば4月17日に「集団疎開児初五〇〇〇父ト共ニ退学挨拶ニ来校。縁故疎開シテ九州ニ帰ル由。母、兄弟共ニ空襲ノタメ死亡セリトイフ」、6月30日、「山手校初五〇〇〇〇縁故疎開ノタメ挨拶ニ来校」などである。神戸市からの転入は、6月29日に初五に神戸市成徳国民学校の児童の例がある。集団疎開している児童が縁故疎開する例は誕生寺だけでなく神目寮でも見られる。³¹⁾

8月16日、前日の終戦の詔勅を受け、誕生寺国民学校の全児童（疎開学童を含む）に対し、学校長が「小国民ノ今後ノ決意ト心構ヘニツイテ」訓話を行った。

9月10日には「集団疎開一周年記念会」が誕生寺国民学校で開催されている。10月20日には学校長から「集疎学童帰神ニツイテ」の訓話があった。10月24日には「山手校帰神ニツキ挨拶ノ為」に神戸市視学、市会議員、渡辺校長、中島訓導が来校した。10月31日に「帰神学童送別会 初五以上参列 来賓 卯野視學員 山手校長及附添教員 父兄代表 村長 農業会長 寮母・作業員 其ノ他村内各位 午後三時ヨリ送別会」、11月1日には「集疎附添教師（中島 東郷 西倉 岡田 中村）送別式」があり、11月2日に「集疎学童帰神（六時五十五分）岡山經由 初五以上全員六時二十分校庭ニ集合シ駅頭ニテ歓送ス 高等科 誕生寺分教場後片付」、原田校長はわざわざ岡山まで出張し児童を見送った。³²⁾

おわりに

2014年は学童疎開70年であったが、マスコミでも取り上げることはあまりなかったように筆者には思えた。わずかにNHKが光明養護学校の学童疎開を放映したのが記憶に残る程度である。疎開関係者が高齢化したためであろうか。学童疎開という教育史において特筆されるべきことを簡単に忘却してよいのであろうか。戦時体制、空襲、疎開という一連の過程の中で学童疎開は検討されねばならない。その意味で本稿はわずかな部分に接近したに過ぎない。それでも神戸市の学童疎開の一覧の作成に取り掛かったのは、たとえそれが暫定版にすぎないにしても意味があると思う。今後も基礎データを集積していくことが必要である。また疎開受け入れ側の資料を閲覧できたことは、いままで疎開側の資料しか見ていなかった筆者にとっては、考えさせられることも多かった。少なくとも受け入れ側は、置かれた条件のもとで集団疎開に可能な限り協力したのであろう。さらに戦時行政機構が迅速に集団疎開を実施したことは、ある

意味では驚くべきことである。戦時体制下において国、県、地方事務所、市町村、校長会、学校という系列で決定された政策が実施される過程がある程度判明した。また教職員が食糧確保や防寒対策などに奔走したり、地元との融和に配慮したりしたことが明らかになった。

神戸市の学童疎開や空襲に関する資料は散逸しつつあるといえる。役所や学校で書類整理が行われるたびに、いくばくかの書類が失われる可能性がある。何らかの対策が講じられない限り、貴重な資料が永遠に失われてしまうであろう。

本稿の執筆にあたっては、多くの方々に資料閲覧等の機会を与えて頂いた。神戸市立山の手小学校の井口佳代子校長、西郷小学校の望月和恵校長、魚崎小学校の松村幹也校長、神戸市総合教育センター教育史編集室、そしてとりわけ久米南町立誕生寺小学校の光延英一校長、誕生寺漆間徳然住職にお世話になった。記して感謝したい。12月の下旬、児童250人の宿舎であった誕生寺を訪問した。寒い日であった。寺の中はひとしお寒く感じた。70年前に何があったかを、もう一度考えてみようと思った。

(注)

1) 兵庫県史の学童疎開については、神戸市教育史編集委員会編『神戸市教育史 第二集』(1964年)、兵庫県教育史編集委員会編『兵庫県教育史』(1963年)、西宮市編『西宮市史第三巻』(1967年)、『尼崎市史第3巻』(1970年)、谷田盛太郎編『続住吉村誌』(1972年)、西須磨小学校百周年記念事業委員会編『西須磨小学校百周年記念誌』(1992年)、市町史として、『西宮市史 第3巻』(1967年)、『芦屋市史』、岡山県史編纂委員会『岡山県史 第12巻 近現代Ⅲ』(1990年)、新修神戸市史編集委員会編『新修神戸市史歴史編 近現代』(1994年)、『本庄村史 歴史編―神戸市東灘区深江・青木・西青木のあゆみ―』(2008年)などがある。

個人の研究として、岡尾重『勝ち抜くための疎開です』(1984年)、青木公直『学童集団疎開の記録～神戸市西郷国民学校の場合～』(1992年)、同『学童集団疎開の記録Ⅱ』(1993年)を神戸市の学童集団疎開に関するものとしてあげたい。

全国の状況は、文部省編『学制八十年史』(1954年)、代表的な研究書である、逸見勝亮『学童集団疎開史―子どもたちの戦闘配置―』(大月書店、1998年)のみをあげておく。

学校誌は多いが、本文で言及したもの、直接参考としたものに限りここで示すと、『雲中―「いさご」特別号―』(1953年、本書の中の学童疎開の座談会は、神戸市立雲中小学校創立100周年記念誌編集委員会編『創立100周年記念誌』、1973年、に再録されている。)、志里池小学校編『創立二十周年記念』(1957年)、本山第一小学校九十年誌編集委員会編『本山第一小学校九十年誌』(1966年)、神戸市立魚崎小学校編『伸び行く魚崎小学校』(1973年)がある。そのほか多数の学校誌が編集・発行されているが、年表で学童集団疎開の発日、帰還日などを示しているに過ぎない場合も多い。

回想についても多くの記録が残されている。学校誌に含まれているケースも多いが、疎開学童が記録集としてまとめている場合もある。『楠の陰で』、『学童集団疎開』などである。

神戸市史の記述が十分でないのは、神戸市の学童疎開の研究が十分に進んでいないことも影響しているだろう。神戸市では空襲についても調査・研究が十分でない。

石田敏紀・鳥取県『鳥取県への学童集団疎開』(2014年)は、鳥取県への学童集団疎開について基礎データを収集したものである。鳥取県に関しては、これ以上に新たな疎開の資料集は困難かもしれない。なお石田敏紀「鳥取県内への学童集団疎開」(『鳥取県立博物館研究報告』第39号、2002年3月)がある。

甲南大学人間科学研究所から『兵庫県学童疎開関係資料集成』が刊行されている。『第一輯 神戸新聞

篇』(2011年),『第二輯 尼崎市浜国民学校 石像寺寮篇』(2012年),『第三輯 尼崎市浜国民学校 宗福寺篇』(2013年)である。いずれも人見佐知子氏の編集である。基礎的な資料の収集と翻刻であり、今後の刊行を期待したい。

なお、鏡野町史編集委員会編『鏡野町史通史編』(2009年)には、多聞国民学校、荒田国民学校の疎開が詳述されている。

- 2) 前掲『学制八十年史』403～406頁。前掲『兵庫県教育史』674～689, 705～707頁。前掲『神戸市教育史 第二集』44～60頁。『兵庫県教育史』、『神戸市教育史 第二集』の編集当時にあった資料で確認できないものも多い。執筆段階で収集した資料を保存するという考えが乏しかったためであろうが、現在でも資料の保存については十分な配慮が払われているとはいえないであろう。なお『週報』は情報局編輯の宣伝誌。
- 3) 野田市長名の縁故疎開の勸奨文書は青木公直『学童疎開の記録』14頁。
- 4) 神戸市千歳国民学校「昭和十九年度 学校日誌」。
- 5) 前掲『兵庫県教育史』688, 689頁。
- 6) 神戸市西郷国民学校「昭和九年度以降 学校沿革誌」。
- 7) 『週報』のほか、神戸新聞の記事についても参照。
- 8) 前掲『創立八十周年記念 雲中』63～72頁。「昭和二十年度 職員録」。
- 9) 前掲志里池小学校『創立二十周年記念』142～143頁。「昭和二十年度 職員録」。
- 10) 前掲青木『学童集団疎開の記録』20～22頁。
- 11) 前掲『神戸市教育史 第二集』46頁。
- 12) 前掲『神戸市教育史 第二集』46, 51頁。
- 13) 前掲『神戸市教育史 第二集』50頁。
- 14) 前掲『西須磨小学校百周年記念誌』282頁。神戸市二葉国民学校「昭和十九年度 学校日誌」、神戸市山手国民学校「昭和十九年度 学校日誌」。
- 15) 洲脇一郎「神戸空襲と国民学校」(神戸親和女子大学『教育センター紀要』第6号, 2010年7月)は「国民学校児童収容替臨時措置案」を紹介した。昭和20年秋に神戸市は児童数の激減によって国民学校の収容替を検討することを余儀なくされた。
- 16) 神戸市西郷国民学校「学校沿革史」、同「昭和二十年度 学校日誌」。
- 17) 同上 学校西郷国民学校「学校沿革史」、同「昭和二十年度 学校日誌」。
- 18) 前掲『魚崎町誌』414頁、武庫郡魚崎町魚崎国民学校「昭和二十年度 学校日誌」。なお前掲『本庄村誌』690～696頁(執筆は佐々木和子氏)参照。
- 19) 神戸市山手国民学校「疎開記録」、誕生寺の由来については大橋俊雄『法然』(講談社学術文庫, 1998年)を参照。
- 20) 稲岡南村「都市疎開ニ関スル綴」。
- 21) 稲岡南村誕生寺国民学校「昭和十九年度 学校日誌」。
- 22) 前掲「疎開記録」。
- 23) 前掲「疎開記録」。
- 24) 前掲「都市疎開ニ関スル記録」。
- 25) 前掲「疎開記録」。
- 26) 前掲「疎開記録」。
- 27) 前掲「都市疎開ニ関スル記録」。
- 28) 前掲「都市疎開ニ関スル記録」。
- 29) 誕生寺国民学校「昭和二十年度学校日誌」。
- 30) 『久米南の一三〇〇年』編集委員会町編『久米南の一三〇〇年』(2013年, 赤木和郎執筆)。
- 31) 誕生寺国民学校「昭和二十年度 学校日誌」。
- 32) 誕生寺国民学校「昭和二十年度 学校日誌」。